

会議録（要旨）

				記録者 清水 径子	
供 覧	部長	課長	課長補佐	係長	係員
件 名	第3回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会				
日 時	平成21年12月24日（火）13時30分～15時30分				
場 所	龍ヶ崎市役所 2階 会議室				
主 催 者	龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会 会長 廣瀬 和喜				
出 席 者	<p>【龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会委員】</p> <p>廣瀬和喜会長、小野寺記美男副会長、道口忠詩委員、矢野努志雄委員、杉田美代子委員、塩幡克三委員、宮川崇委員、藤岡久男委員、佐々木孝誠委員、大野金人委員</p> <p>【事務局】（学務課・指導課）</p> <p>油原正教育部長、石島輝夫学務課長、富永保指導課長、川村昭学務課長補佐、落合勝弘学務課係長、海老原弘一学務課係長、清水径子学務課主幹</p>				
傍聴者の数	2名				
議 題	適正規模について				
資 料	<p>第3回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会資料</p> <p>1 龍ヶ崎市第5次総合計画第1章第4節 1.人口と世帯</p> <p>2 地区別人口推計（各年4月1日見込み）</p> <p>3 町丁別人口（常住人口）平成21年4月1日現在</p> <p>その他 年齢別人口（1歳刻：住民基本台帳より）平成21年10月1日現在</p>				

発言の内容（要旨）

事務局	<p>本日は、皆様お忙しい中、お集まりを頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>ただいまから、第3回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会を始めさせていただきますと思います。</p> <p>それでは、廣瀬会長お願いします。</p>
議長	<p>皆さまこんにちは。急に寒くなりましたが、お互いに風邪など引かないようにご協力を賜りたいと思います。今日は第3回審議会ということでございますが、どうぞよろしく願いいたしたいと思います。なお、第2回に関しては大変活発なご意見をいただいたり、いろいろな方向に付きましても、皆様のご意見があったわけでありまして、今日は適正規模に付きましてのおおよそのまとめをしていきたいと考えております。ぜひ、ご協力を頂きたいと思っております。</p> <p>なお、今回の適正規模適正審議会を開催するに当たりまして、会議を傍聴したいという方が2名おりますので、その傍聴を許可したいと思います。傍聴される方の入場をお願いします。</p> <p>傍聴者入場</p>

議長	<p>傍聴の方もお見えになりましたので、あらためて会議を再開したいと思います。本日は、委員10名でございますけれども10名の参加を頂いておりますので、この会は成立しております。</p> <p>審議会の開会に入る前に、前回の議事録に付きまして、確認させていただきたいと思います。議事録の訂正の申し出がございましたので、訂正箇所を事務局からご説明願います。</p>
事務局	<p>議事録の訂正ということで、2点ほど、説明させていただきます。</p> <p>訂正箇所説明</p>
議長	<p>ただいま事務局から訂正の説明がございまして、議事録の修正をさせていただきました。このことに付きまして、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。このように訂正するというので、よろしいですか。</p>
委員複数	<p>はい。</p>
議長	<p>それでは、訂正した議事録につきましては、今日の会議の終了した後、杉田委員と塩幡委員に署名をお願いいたしたいと思います。なお、本日の第3回の議事録の署名は、宮川委員と小野寺副会長をお願いいたしたいと思います。</p> <p>それでは議事に入らせていただきたいと思います。前回、委員の方から龍ヶ崎市の人口動態に関する資料を用意していただきたいという旨の発言がございました。会議に入る前に、事務局からその資料に付きましてご説明を頂きたいと思います。</p>
事務局	<p>それではお配りした「龍ヶ崎市第5次総合計画（19年度～28年度）」という資料に付きまして、説明をさせていただきます。地区別の人口の推計をというお話でございましたけれども、正式に地区別に将来を推計したものであるものではございませんでしたので、内部資料的なもので、地区別の人口は配布させていただいております。</p> <p>まず1ページの方から説明させていただきますけれども、第5次総合計画の中に第1章としまして「将来都市像」、その第4節の中に「将来人口」というのが記載されてございます。それにつきましては前回会議でも申し上げましたけれども、市の総合計画ですので、市でいろいろな政策を行い、その成果の期待値を含めました「これくらいの方が将来入ってきて欲しい」という数値を出しております。</p> <p>それによりますと、平成28年度に82,000人という目標を掲げております。ページ開いていただきまして、2ページに移らせていただきます。平成28年の総人口82,000人ということで、総合計画の中のページを抜き出したものでございます。表記の仕方としましては平成17年度、78,954人で次に28年度の目標の82,000人ということで載っております。</p> <p>次の3ページでございます。こちらで年齢別・構成別の人口の目標値を出しております。構成別の内訳を見ますと、老年人口65歳以上、年少人口0歳～14歳、それから生産年齢人口ということで15～64歳の、3つの内訳として出しております。グラフの方ですけれども、一番上の青いライン、それが生産年齢人口ということで15歳～64歳。平成17年が55,580人で平成28年の82,000人のうち53,500人としております。こちらが平成17年度実績から約3,000人ほど減少ということで見ております。</p>

続きまして緑のラインですけれども、こちらが年少人口ということで0歳～14歳。平成17年の実績11,867人に対しまして平成28年で11,500人ということで、370人減少というふうに見込んでおります。

もう一本の（オレンジの）ラインですけれども、老年人口65歳以上ということで、平成17年が11,507人、平成28年が18,000人ということで6,493人ほど増加と見込んでおります。

これが、総合計画で表している人口推計でございます。

次のページ、こちらが地区別の人口推計になります。こちらも総合計画を担当しております企画調整課で作成しておりますが、総合計画とはリンクしておりません。少し古い数値なんですけど、平成12年・西暦2000年を基準といたしまして作成しております。平成12年の10月1日現在、国勢調査が行われましてそのときの調査の人口が記載されております。平成12年から平成47年・2035年までの35年間を推計しているものです。こちらの資料は内部資料として出しておりますので、そのほかの市の計画とかそういったものに反映された数字ではございませんので、あくまでも参考といったことで捉えていただきたいと思います。

こちらは地区別になっております。どのような推計をして表しているのかと申しますと、次のページをご覧ください。町丁別人口（常住人口）でございますけれども、こちらは今年の4月1日現在の実数でございます。一番上の表にそれぞれ地区が載っております。龍ヶ崎地区はどういうところかと申しますと、合併する前の旧龍ヶ崎町、通称米町とか上町とか下町とが呼んでおりますけれども、実際には住民票上は町名としての表示はありません。「龍ヶ崎市 番地」というような表示になっております。それから愛戸町・姫宮町・出し山町・野原町・緑町、が龍ヶ崎地区です。こちらは学校区で言いますと、龍ヶ崎小学校と龍ヶ崎西小の区域になります。

続きまして大宮地区です。こちらは全部大宮小学校の学区になります。佐沼町・大徳町・宮淵町・上大徳新町。

次は長戸地区ですけれども、こちらは全部長戸小学校の学区になります。塗戸町・高作町・長峰町・板橋町・大塚町です。

次のページに行きまして、八原地区。こちらは八原小学校と城ノ内小学校になります。一番上の八代町が城ノ内小の学区、羽原町・別所町・貝原塚町・薄倉町・泉町が八原小の学区になります。

続きまして馴柴地区です。馴馬町・門倉新田町は馴馬台小学校、入地町・南中島町・若柴町・馴柴町・佐貫町・佐貫1丁目～4丁目・稗柄町・小通幸谷町・庄兵衛新田町・川崎町、こちらは馴柴小学校になります。

続いて川原代地区は川原代町で、川原代小学校です。

北文間地区、こちら全部北文間小学校の地区です。長沖町・長沖新田町・須藤堀町・豊田町・北方町・羽黒町・高須町・大留町・南が丘1丁目～6丁目です。

次のページです。北竜台地区。こちらは少し入り組んでおりまして、長山1丁目～8丁目は長山小学校，松葉1丁目～6丁目は松葉小学校，小柴1丁目につきましては，番地で分かれておりまして駒馬台小と久保台小の学区になっております。小柴2丁目・3丁目は駒馬台小学校，小柴4丁目・5丁目は松葉小学校の学区，平台1丁目～5丁目は駒馬台小の学区，中根台1丁目～5丁目と久保台1丁目～4丁目は久保台小学校の学区となっております。

続きまして龍ヶ岡地区です。こちら入り組んでおりまして，藤ヶ丘1丁目～7丁目は八原小学校，城ノ内1丁目・2丁目も八原小学校，城ノ内3丁目～6丁目は城ノ内小学校，松ヶ丘につきましては全部八原小学校，白羽につきましては全部城ノ内の学区，中里1丁目・2丁目は八原小の学区で，3丁目は城ノ内小の学区となります。

学区を決める際は，通学路なども下見しまして，遠いといったような面でも分けておりますので，このような学区編成になっております。

それでは，4ページに戻って頂きます。人口の推移に付きまして，ご説明したいと思います。先ほども申し上げましたように，この資料は平成21年10月1日現在の国勢調査を基準としております。総合計画との違いや現状の人口との差などを申し上げたいと思います。2005年・平成17年ということでこちらは総合計画の基準となる年度でございますけれども，表によりますと78,648人としておりますが，実際は78,954人ですので，このときは推計値より実際の人口の方が300人ほど上回っています。それから2009年今年度ですが，推計82,000人としておりますが，本年の4月1日現在の人口を見ますと79,232人で，この時点で推計人口を3,268人下回った形になっております。

平成28年・2016年でございますけれども，この表では84,236人ということで推計しておりますが，総合計画ではこちらの平成28年が82,000人ということでまとめております。

この表では2020年・平成32年の84,679人をピークとして最後の2035年・平成47年まで減少していくという推計をしております。この表の中では，当初作りました平成12年から2020年・平成32年までは約9,000人の増というふうに見込んでおります。最終的に，平成47年・2035年で79,306人ですから，平成12年と比べますと，3,535人が増加しているという推計です。

最終的な地区割りの数値の比較でございますが，表の一番最初の2000年と比べまして，龍ヶ崎地区は12,213人ですから4,803人減少する。大宮につきましては1,487人の減，長戸につきましては640人の減，八原は1,264人の減，駒柴は2,507人の減，川原代は470人の減，北文間は1,098人の減。北竜台は期待値も込めまして3,161人の増，龍ヶ岡は12,914人の増と見込んでおります。

資料の説明については，以上でございます。

ただいま人口動態資料の説明を頂いたわけでありましたが，このことについてご質問等ございませんでしょうか。またご意見がありましたらどうぞ。

過日，第2回の審議の中でもいろいろな意見が出てきたわけですが，特に龍ヶ崎につきましては人口の動態を考えた上で適正規模・適正配置の問題を検討したらどうだろうかといったご意見もございましただけに，今回の資料はまた参考になるのかなという気がいたします。ご意見，ございませんでしょうか。

なければ、よろしいでしょうか、先へ進ませていただいて。

それでは改めまして、本日の会議に入らせていただきたいと思います。ここで議長として、第2回の話し合いの中で出された問題についての簡単な整理をさせていただきますので、そのことに付きまして報告させていただきます。なお、これは前回の意見の主なものでありますが、全部ではございませんので、ご理解を頂きたいと思います。

これは意見を出していただいた委員さんの名前を伏せて、それぞれA B C委員という形で申し上げたいと思いますが、A委員からは「理想は1学年2～3学級だろう。ただし、1学級あたり20人ないし30人いればいいんじゃないか」というようなご意見でありました。なお「小規模校の良さというようなものも認めるべきじゃないか」というご意見でもありました。ですからただ単に学級数が多いとか少ないとかではなくて、いろいろなそういう問題を十分勘案した上で決めたらどうだろうか、というようなご意見だったかと思います。

B委員からは「現実的には1学年2学級程度だろう」と、でも「メリットを考えて最低でも1学年2学級というのが大事なことなのかな」というご意見があったように思います。

C委員からは「児童生徒の推計を考えた上で慎重に検討していくべきだ」と、特に新しく市民になられた方々の動向等もありますので、「その辺を詳らかにして進めたらどうだろうか」ということだと思えます。

D委員からは「中学校は4学級くらいあると活気があっていいんじゃないか」というお話がありましたけれども、最終的には「1校12から18学級が理想であるけれども、龍ヶ崎市の地域性や歴史を考えた上で今ある学級、単学級の学校でも、この問題についていろいろな角度から検討したらどうか」というようなお話だったと思います。

次にF委員の方からは「1学年3学級あれば学校の中での交流が可能になり、教育的効果があるだろう」と、「少なくとも1学年2学級が必要である」というご意見だったと思います。

次の委員からは「1学年には30人、3学級あるとなお良い」と、「お友だちも先生も学びあいの中で育っていくんだ」ということのお話があったと思います。なおこの委員からは、人間関係、先生の観点・育ち方、そういうものもぜひ考えるべきじゃなからうかというようなご意見があったように思います。

次の委員からは「学力面から考えた場合には単学級よりも1学年2～3学級あった方が良い」と、最終的には「30人掛ける3学級の6学年が小学校の場合では理想じゃないか」というようなご意見があったように思っております。

なお、今の意見につきましては議事録の中から、おおよそを取り出したものでございますので、全部ではございませんから、どうぞご理解を頂きたいと思えます。以上が、第2回の審議会で出された意見の大筋を申し上げます。

それでは今回は、適正規模のまとめに向かいながら各委員のお話を頂きたいと思えます。

前回もありましたけれども、どうぞざっくばらんにご意見をいただきたい。率直なご意見をいただいて、いわゆる龍ヶ崎市の教育における適正な規模というのはどういうものであるか、ということのご意見がまとめればありがたいと思っておりますので、どうぞご遠慮なくお願いしたいと思えます。

議長

諮問の大きな理由は少子化の中で児童生徒の減少という問題にどう対応するかということと、その中で児童生徒の減少に伴う各地区・各学校の教育の上での効果はどうなんだろうかと、教育の向上というものをどうするのかということが、諮問の大きな要因であったかと思えます。ですので、教育環境を整えるという意味からすれば、どのような適正規模がいいのかなという問題で、今まで話し合われてきたように思いますので、その辺のところはどうだろうか。「小規模だってメリットはあるじゃないか」「大規模は大規模なりのデメリットもあるよ」というようなご意見が委員の皆さんから出されたらありがたいなと考えております。

少子化とか児童生徒の減少に伴う教育上の諸問題とは一体何なのか？ということが、僕の考えなんです。少子化であり、児童生徒は減少する。そうすると、教育の効果とか教育上の問題が出てくる。諸問題って何なの？というのが私の一つの疑問でもあるわけなんです。そういうところからご意見を出していただいても結構だと思いますし、それからまた、教育をしていく上での視点というようなものもいろいろあるでしょうから、いろいろなご意見を出していただいたらありがたいなと思いますので、どうぞ。今のことに限定しなくても結構でございますから、お話いただければと思います。

B 委員

いま課長さんから資料のご説明をして頂いたんですけども、詳しい内容で、ありがとうございました。これを見ても分かるように、もう完全に少子高齢化ですね。老年人口が増えて小さいお子さんが減っているというのが目に見えて現れている表だと思うんですけどもね。それを考えるとやはり今の現実……理想的にはね、前回は各委員さんが理想論みたいなものをお話していただきましたけれども、やはり理想論じゃもうやっていけないんじゃないかという気がするんですよね。要するに5年とか10年先については。現実的な考え方でやった方が、より良い内容が出てくるんじゃないかという気はするんですよね。私も前回は「理想的には1学年2学級」というお話をしたんですけど、現実的な考え方をすると、ちょっとそれは難しいのかなという気がしました。

というのも、それは先ほどの課長さんのお話を聞いた人口動態と、いろいろとインターネットで龍ヶ崎の人口とかそういうのを調べているんですけども、やはり人は減っているんですよ、少しずつですけど。特に今年…先日ちょっと課長さんの所に行ってお話をしたんですけど、10月1日現在で0歳児と1歳児が100人くらい違うんですよ、0歳児が少ないんです。今の0歳児が少ないってことは、5年先に1年生に上がる子どもですから、今のクラス数はたぶん維持できないということですね。

先日、私の地区は松葉小学校なので松葉小学校の教頭先生にも伺ったんですけども、今1学年2クラスありますが、平成25年には、完全に1クラスになるとお話をしていました。その点を考えると、理想的には先ほど言いましたとおり2クラスが理想的なんだけど、将来性を考えると、1クラスも止むを得ないのかなという気がいたします。これが今の私の率直な意見です。

議長

ありがとうございます。率直な意見が一番大事であって、理想的なことではあるよりは現実に密着した話題を提供していただいて、ありがとうございました。

事務局

会長。

議長	はいどうぞ。
事務局	いまB委員からお話ありましたように,先日ちょっとお話しする機会がありまして,そのお話聞いたんですね。私もその資料を見つけてみまして,今日ご用意していますので,配らせていただいてもよろしいですか。
議長	そうですね。ではお願いします。  資料配布
議長	B委員には,かつての経験を生かしているいろいろな立場からお話を頂いておりますし,本当にありがとうございます。どうぞどんなご意見でも結構ですので,皆さんのご意見をいただきたいと思います。
B委員	最近ニュースでもありましたよね,茨城県が,運動で上位に入りましたよね。中学校が2位だったかな,1位だったかな,1位ですか。小学校も上位に入っていますよね。そのときに話をしていた人が「運動イコール学力なんです」って。運動ができる人は学力もそれなりに向上するというお話が出たので,茨城県はすごいなというような感じがしたんです,これは余談ですけど,でもそれだけ茨城は良い子どもが育っているなど。
議長	そうですね。
B委員	環境も良いというふうに思うんですけどね。
議長	同感ですよ。運動能力と学力は結構並列な形で考えた方が良いかなど。 (資料配布終了を見て事務局に対し)はい,ではこのことについてご説明いただけますか。
事務局	B委員からご指摘があったのは表の1番上のところで,0歳と1歳の合計の数字が100人くらい違うと。その前の年あたりは,つまり2歳と1歳では20人程度。その前はそんなには違いがなくて,4歳5歳が少し差があるかなという状況で,0歳と1歳の100人差というのは,かなり目立つので私も見てびっくりしたんですけども,そういった現状です。以上です。
議長	いま課長さんから資料の説明がございましたけれども,0歳のところを見ると1歳と比較して100人違いますね。こういう現実に立って,将来の適正規模というものを考えていくべきではないかというような,前回の考えとのの違いというものを話していただいたんですが,どなたかご意見ございませんか。
I委員	ちょっといいですか。この資料より後は子どもの数はどんな予想になっていますか。予想は立たないでしょうけれども,さらに減っていくのでしょうか。
事務局	この資料より後の推計につきましては,当初お配りした資料に記載されている内容で,実際に生まれた人口の数値で捉えております。学校の学年あるいは学校の児童生徒数ということであれば,そちらで見ていただきたいと思います。

いずれにせよ、もっと減っていくのは間違いないですね。そうすると15歳のところを見てみると今の中学3年生ですが、874人。その前後を見ても大体800人真ん中から後半かな、12歳位から...800人前半もあるけど、中間から後半くらいのほうに人数がずっといますよね。ところが0歳周辺だと200人減っているんですね。200人減るとするのは今の学校のままいくとどうなるのか.....大変なことだなと思うんですけれどもね。

私は単学級というのは経験ないんですけれども、一番小さい学校は大宮小に勤務したときで1学年2クラスでした。2クラスぐらいでも先生が教えるのはあの頃は1クラスに20人ぐらいでした。少人数なので意外と教えやすいということがありました。ただ出張とかいろいろな役割分担とかがありまして、例えば学校に12学級あるとして担任の先生が12人いて、教頭を入れても3人しか余ってないんです。休みとかがあると対応しなくてはいけないのですが、2クラスあると1クラスの先生が2クラスを見る、監督はできるわけです。そういう意味で、単学級だとそういうことができないということがあると思います。単学級で誰か先生が病気になったりとか、あと出張とかがあったりした場合には、職員室には誰もいないという大変な状態になってしまいます。児童生徒が少なければ一人ひとり目が届きますけれど、そういういろいろな行事とか出張とかがあったときの教員の人数が足りない。ただこれが2クラスになると多少、3クラスになるとかなり、小学校も1学年3クラスになると、余裕はありますよね。

3クラスの学校というのは、今（私のいる）中学校が3クラスなんですけど、小学校でも1学年3クラスの学校にいましたけれども、3クラスというのは非常にやり易いですね、小学校6学年で18クラスあると。出張や休みのときの融通もきくし、3クラスあると人事的に学年のチーフになる人と若い人とのバランスなんかも取り易いです。いずれにしても今から200人も減っていくということならば、今までどおりの学校数でやっていくのは果たして可能なのかどうかということも、非常に難しいなという感じはします。学区なども、地域性とかいろいろありますけれども、現実に200人減るとすると.....例えば中学校で言うと昔は500～600人、今の0歳児だけで1学年組んでいたわけですから。1つの学校の1学年分ですからね。560人で11クラスかな、30年前の中学校だとそのぐらいいましたのでね。

いましたよね。そうでしたね。

今I委員から単学級の課題というか問題というか、出されて、特に現場の指導の中で1学級の課題というのはこんなものがあるということの、具体的な例が出てきたわけでありまして。

考えてみると、適正規模適正配置という問題について考えていく場合の、いろいろな問題が浮き彫りになってきているような気がいたしますので、その他の委員の方々からもう少し違った角度から結構ですから、ご意見をいただきたいと思っております。



C 委員

いいですか？

私は、地域というものを重要視すると、やはり小学校というものはその地域のシンボルでもあるし、おのおのの学校には歴史なり伝統というものがある。そうするとやはりその辺のところは現実的に1学年1学級でもやむをえないのではないかなと。子どもが少ないんだから。現実的には1クラスでも可能な状況が今もあると思います。

やはり地域というものを重要視したほうが、子どもを教育する面においては、おのおのの伝統とかそういうものを見ながら、1クラスでもやむをえないんじゃないかなと、そう思います。

議長

ありがとうございます。あえて再度説明というものはいたしませんので、ご意見をいただいています。

1学級とか複数学級とか限定してしまうと先に進まないというようなことのご意見だと思いますし、特に今C委員のほうから「地域に根ざした小学校」ということを、古い新しいではなくて、地元の「俺らの学校」というような母校意識というものを考えた場合には、1学級でも現状のまま存続すべきではないだろうかというご意見の、幅広いところであったのかなと思います。

先ほどのB委員のほうは「統計の上から1学級か」というところで、I委員のほうからは1学級の持つ問題、指導という立場になったときに1学級というのはどうだろうかという問題が出てきたわけでございますけれども、どうぞフリーにご意見をいただきたいと思いますが。遠慮はいりませんよ。まちのことを考えていくわけだから。

A 委員

先ほどの資料を見て、私の年代に比べて今の0歳との人数は、半分ですよ。ね。学校数は逆に増えている状態ですよ。それを考えるとやはり1学校（の1学年）に2～3学級とか30人というのはもう無理だということが分かると思うんですよ。龍ヶ崎の全体を見た中でも、ニュータウンの方、龍ヶ岡とか北竜台とかは今後10年くらいは増えていくというような中で、それ以外は減少していくということだと思うんです。早い話、ニュータウンの方は今後10年くらいは今の状態でもやっていけるのかなということは分かるんですけども、ただ、長戸小をはじめ北文間・川原代小学校なんかはやはり減少していくのが目に見えていて、長戸小なんかは現在も（児童数が）90人ですよ。長戸小は1クラス10何人のところもあると思うんですけど、片や隣の城ノ内小学校は1クラス40人が2～3クラスあるというようなことになっています。教育は同じ教育をすると思うんですけど、なんかこう、子どもたちが育っていく上で何かが違ってくるんじゃないかなと思います。

私は前回も言ったように、できれば今の小学校・中学校を残したいという思いがあるんですけど、あまりにも少なすぎて逆に子どもたちの教育に悪い影響が出てくるなら、そこら辺をはじめに考えたほうが良いかと。実際に長戸小なんかは初めにね、そこら辺をどうするか。現実的にもう起きてるわけですから。考えたほうが良いのかなと思いました。

議長

今A委員からは「単学級・複数学級もさることながら、現実に統計資料等から出てくる問題としては、それより前に統廃合の部分まで念頭において話をしていけないと無理じゃなからうか」というご意見だったような気もいたしますが、それはそれとして次回以降検討させていただきたいと思いますが、現実には1学級でやっていかざるを得ないような人口動態がございますので、その辺。もうひとつは、教育現場ということを考えて上で子どもの日々の生活の中での指導がおろそかになったり、また、現在の教員の配置数からすると、これが大きく変わらないとすれば指導の現場をわれわれとしてはどう補完するのかということも考えていかなければならないし、これはA委員から出ているような共通の話題にもなるような気がいたします。その辺どうなんでしょうか。

B委員

さっき出たように、何しろ人口が偏ってるんですよ。A委員が言ったように、ニュータウンの北竜台と龍ヶ岡の方が増えて、旧市街の方がだんだん少なくなっていくと思いますでしょう。それも見ていかないとだめなのかなと思いますね。たぶん最終的には学校区域がありますから、自分がほかの学校に行くとかそういうことが今できないですよ、この龍ヶ崎市に関しては。それを柔軟に対応して、本来的には通学距離が今4kmかな？小学生が4kmで中学生が8kmだったかな。それぐらいがいいですよっていう基準はあるんですけど、それをちょっと緩和してやれば、ほかの学校に平等になるのではないかという気がします。

議長

多いところは少ないところへ。

B委員

全体的に考えればそんなには少なくなっていないですよ。ただひとつの学校で考えちゃうと、ものすごい差がありますよね。逆なんですよ。だからその点をちょっと考えていただいた方がいいのかなという気はするんですけどね。

議長

この辺はどうなのかねえ。人口の偏りでね、確かにニュータウンといわれている部分の人口が、特に龍ヶ岡は（地区別人口推計によると）これからまた12,000人も増えるという状況だし、そうやってきた場合に片一方では減少していく。それが今B委員の言ったようにうまく移動ができて大人数の方から少ない地域へ児童生徒が移動できるような状況が生まれればいいけど、そうもいかないとする。家庭の事情とか通学の問題とか関わりが出て参りますけど、その辺どうか.....。

もう少し整理をした方がよろしいでしょうかね。1学年1学級でもこれは良いんじゃないかという考え方。1学級では問題があるので2学級にした方が良いという考え方。将来の龍ヶ崎の人口を考えた場合は当面はこの考え方でよいけどそれより先になるとまた考えざるを得ないから答申も2段3段を考えながら進めていくしかないのかなと、いうことですね。

当面、今のこの時点でのいわゆる答申と、それから10年後また再開して答申を出す場合では答申の内容がだいぶ違ってくるような気もするので、当面現実問題にあわせた答申を今われわれとしては考えながら、それでいながらも将来のことも考えざるを得ないというような、ジレンマというか矛盾したような考えがあって、なかなか整理もできないんですが、その辺どうでしょうかねえ。もう少し学級に対するメリットデメリットというようなものをお話いただければありがたいんですが、これは現場の先生に聞いた方がよろしいかな。F委員。

F 委員

この間もある学校で、今度の1年生が男女の偏りがすごくあって20人以下になってしまうというお話を、長戸小ですか？あったと思うんですが、例えば教育上の効果とはいえないんですが、男女で協力して何かを行う場合に、極端に言えば男子だけしかいなかった場合には、男女の協力というわけにはもちろんいなくなります。先ほどA委員が「悪い影響」という言葉を使われたんですが、悪い影響ということではないかもしれませんが、実際に教育を進めていく中で、男女のバランスとか人数が少ない場合に、どうしても本当はもっと効果があると思われるようなことが、やりにくい場面が出てくるのかなと思います。人数が少なかった場合とか、また、男女のバランスが悪かったりとか、そういうときを考えた場合には、私は、学級数や子どもの数がもう少しあった方が良いなと思います。皆さんももちろん思うかもしれませんが。実際にその地域の保護者の方とかは、子どもが極端に少なかったり男女のバランスが悪いという状況でどう思うのか考えながら前回は終わったような気がするんです。なのでそういう方の意見も、保護者の方の意見も聞いてみたいなと思います。

議長

冒頭にもありましたけれども、パブリックコメントの問題を踏まえて、なおかつ保護者のご意見というのもいただきながら、答申を出していこうというお話もありましたので、今F委員から出された問題については、今後ひとつの課題として現実的にその問題を取り上げるような機会が出てくるのかなという気がいたします。

先ほどA委員がおっしゃったように、人数が少ないとどういうデメリットとこのが出てくるのか、そのことによって子どもの人格形成に、人間作りの上で大きなマイナスになるようであるとすれば、この問題については十分考えざるを得ないのかなという気がいたしますので、その辺のいわゆる単学級・複数学級または、少人数学級でも十分そういうものはカバーできるような内容か、教育活動ができれば別だけれども、できないとすればその辺どうなのかなという気がしないでもなくて、今日ここで結論を出すということではございませんから、ご意見をいただければと思うんですが。

G委員、指名して申し訳ないんだけど、八原あたりはどうなんだろう、単学級と複数学級のデメリットというか、悪い影響というものは特に単学級の場合はあるのかな。

G委員

私は単学級のところも大規模校のところも、担任としての経験はしています。適正な規模ということから言わせていただければ、例えば単学級のまま1年生から6年生までその人間関係だけでやってきてしまうと、子どもたちの中に一度発生した人間関係とかの問題が起きた場合に、なかなか子どもたちの力でそれを解決していくとかということがすごく難しく、中には苦しい状況のままに置かれている子もひょっとするといえるかもしれない。例えば2クラスあってクラス替えができるような状況であればその中でおのずと人間関係なども、例えば問題が起きた場合に修正を図ることも可能だろうし、子どもたちにとっても、いろいろな性格の子とかいろいろな特性を持った子と接する機会があった方が、私は学び合いにはなるという考えは前回まで述べてきたと思うんですが、その考えは変わりはありません。

G 委員

大規模校は大規模校で、子どもたちがお互いがどういう子か、例えば4クラス5クラスあると、だんだん上の方の6年生ぐらいになってくると分かってくるんですが、3年生ぐらいまでは「この子どういう子だか分からない」ということで信頼関係が築きにくいというような…。あんまり大規模過ぎて、信頼関係がなかなか築きにくいというデメリットがあるとは思いますが。

なので、私の今まで経験してきた中での適正規模という考え方では、やはり2クラス～3クラスあった方が、子どもの成長・学びあいの観点からもいいのではないかというふうに考えます。指導する側、先生方もいろいろ経験していく中で育っていくということはあると思うんですが、単学級でその学年に自分しかいないという場合は、なかなか先生方も悩むことが多いんじゃないかなと思います。

議長

I 委員どうぞ。

I 委員

付け加えまして。同じ1学級でも人数が25～26人いるのと、10人ちょっとぐらいではぜんぜん違うと思うんですけどもね。例えばグループ学習とかグループでの話し合いとか、4人ぐらいで話し合う活動って結構、小学校でも中学校でも多いんですけども、そういうときにいろいろな個性豊かな子どもたちがいて話し合うのが一番良いので、男女も半々までは行かなくてもある程度バランスもまあまあで、人数もやはり20人…1クラス20人いればいろいろなことができると思うんです、単学級であってもね。

グループ学習にしても、先生が教えるというのばかりじゃないと思うんです。子ども同士で教えあったりというのが意外と効果があったり、楽しかったりやる気が出たり、人の意見をよく聞いたり、そういう機会はあっても良い。1学級10人台になると男女のバランスも崩れる場合もありますしね。グループ学習というより個別指導というふうになります。やはり子どもはいろいろ「こっちは得意、こっちは不得意だけど」なんていうのは十分ありますから、片方は算数が得意、片方が理科が得意とか体育が得意とか、そういう子もいるので、リーダーを育てる意味でもある程度の人数がいて切磋琢磨していくっていか、点数だけで勝負するっていうのではなくてね、教えあってみんなでできるようにっていかっていかってのを考えると、ある程度的人数いた方が理想だと思います。

議長

今お三人の方から出された共通の意見は「教育的な配慮ということからすれば、多人数で指導した方がいろいろな面で人格形成の面でもいいんじゃないか、人間形成の上でもいいんじゃないか」ということだろうと思いますので、現場を経験され、現場をお持ちのなってきた過去の経験だけではなくて現実を見てのご発言かと思えます。これはこれとして大事にしなければならないし、現実統計から出てくる人口の動きというものも見なければならぬし、どれがどうなるのか、要は最終的には教育的な効果が一番良いのは何かということで、まとめをしていかなくちゃならないのかなという気はするんであります。その辺のことについてもう少し各人の、教育的な効果というか教育の向上のためには多人数が良いのか少人数でも十分なのか、またそういうことの過去の経験の中でお話いただけたらありがたいなと思うんですが。D委員どうですか。

D委員

私はたまたまなんですけど、子どものときに小学校が変わりまして、同じ町内同じうちに住んでいながらも小学校が変わったことがあるんです。学区割がはっきりしてなくて、新興住宅街だったものですから人口が急に伸びて新しく学校が必要だということになって、小学校3年生まで行った学校から4年生になったら新設校に移りました。結局のところ、元々旧市街地にあった学校はもういっぱい入れなくて、プレハブを作っていたんですけどもそれでも入れなくて新設校作りまして。その間はちょっと遠かったんですけどそっちの違う学校に行ってくださいと、いうことで行きました。子どもなりに友だちが増えたりとかいうのはいろいろありました。今してみると、「違う学校に移された」という意識よりは「移って良かったな」という気は私個人としてはあります。

現状、地元に戻ってその学校を見てみるとほとんど子どもがいない状態で、やはり30年とかすると、新しい学校を作ってもその学校に行く子どもたちがまたいなくなっている。さらにその外側を見てみると新興住宅街ができていて、そっちにはそっちでまた新しい学校ができていますね。

議長

龍ヶ崎あたりの現実には、多分そういうような傾向がありますよね。

D委員

私もここに引っ越してきて、まさにその通りだなと。自分が子どものころにしてたこと、今回みたいに「どっちに行きましょう」みたいな話じゃないと思うんですけども、経験してきたことからしてもやはり同じようなことがこの市でも起こっているんだと、非常によく分かる。

議長

ひとつ、質問させていただいてもよろしいですか？

今のお話の中で、学校を変ってきたということですが、いわゆる「わが母校」と言うか、自分の学んだ学校への思いと言うかそういうような郷愁と言うか、母校意識と言うか、「地域の中で育った私」というものを考えた場合、先ほどC委員からそういう問題の提起がありましたので、その辺はどうお考えになられますか？

D委員

私は二つとも自分の母校だと思っていて、ひとつは創立100数十年の古い学校で、新しく移った方は市の方でいろいろ工夫していただいて、県内から見学に来るような斬新な建て方をさせていただいたので、それはそれで非常に愛着もあり、今見ても変わった学校で「ああここに行ってたんだなあ」という思いは非常にあって、私としては両方とも思いは同じです。

議長

そうですか。

H委員だけまだ発言が... E委員もですか、E委員、どうですか。今皆様のご意見をいただいたことは。

子どもの視点、子どもが将来どうあるべきかというようなご挨拶を、一番最初に教育長からいただきましたよね。だから親の視点ではなくて、子どもだけの視点で考えたらどうなのかなと思うんですけども、そうは言いながらも、そうなると大きい学校と小さい学校で差があるのは何かかなと思うんです。まず、学校の設備が、当然新しかったり最新のものであったりというのが大きい学校の方が供給されるでしょうから、変わってくるのかなと。

子どもからすれば、競争する力というんですか、競い合うような場面というのは、同級生がいっぱいいた方が伸びるのかなと思います。10人とか20人とか小さい学校だとみんなが仲良しで、中には嫌いということもあるでしょうけど、そういう競争力みたいなものは伸びていかない育っていかないのかなと思います。学校の先生についても相談する先生とかが少ないと、何かのトラブル対応も思うように行かないのかなというふうにも考えました。子どもの立場から行くと1学年10人20人の友だちよりも100人200人の友達と知り合う機会があった方がいいのかなというふうには考えます。それだけ性格上社交的な人も内気な人もいるので、全員が全員友だちにはなれなくても、知り合う機会はあるという意味では、ほんの少しの同学年の友だちよりもそれなりに100人とかいた方がいいと、子どもも思うのではないかなと考えました。

それから、よく「伝統がある」と言いますが、自分も龍ヶ崎小の出身ですから龍小が仮に無くなると思ったら嫌ですけども、でも子どもは「そこではしょうがない」とか「1人とか10人しかいない」となったらそれはしょうがないと思うんで、子どもにとってはその後行く学校で良い思い出を作ればそれが子どもの地域と言うか。大人の思いはこの際捨てるべきかなと思います。自分の思い出というんでしょうか、それはもう二の次三の次ぐらいでいいのかなというふうに思います。

それから今のお話です、ほとんど小学校のことをイメージされてお話ししてると思うんですけども、中学校については、大人っていうのは勝手なものでして、私立へ行かせるとか、自分の学区じゃない学区へ何らかの手を使って行かせる親が今増えてまして、私の地域でも相当数います、だから「地域」とかっていう考えがもうほとんど、私の子どもは今中学生ですけど、今の親、私よりちょっと下の親には私より上の世代の人が思っているよりは無い。そういうふうに感じています。中には当然「地域」という思いが熱い人もいますが。

結論としては、子どもだけを考えれば、小規模...30人ぐらいいればそれはそれで地域性もあっていいんでしょうけれど、今頭にある考えで言えば、10人ぐらいしかいない小規模校については、もう少し...3クラスぐらいあって向こう10年そのまま減っても2クラスとか、10年後には減るでしょうから、それでも2クラスあるよっていうようなぐらいのものが必要なのかな、というのが現時点での考えです。

議長

ありがとうございました。また違った角度から私どもの話の方向、これは議長の責任でもありますけど、やはり子どもの視点、教師の視点、親の視点それぞれの視点があるんだろうと思いますね。どちらかというところに合わせまして、今のところ小学校をイメージしながらお話を進めてきたというのも事実でございますので、中学校を考えればいわゆる「地域」というもののイメージは拡散すると、というようなことを考えての検討も大事じゃなからうかというようなご指摘をいただいたわけではありますが、もっともなことだと思います。

話は前後してしまうかもしれませんが、いわゆる「小さな学校・大きな学校」「単学級・複数学級」いろいろ考え方があり、子どもの教育を考えていく上で一番、今のところは「理想とするもの」ということになってますので、現実じゃありませんで「理想とするものは何か」ということで考えていかざるを得ないということではありますが、人口の動きからすれば冒頭B委員がおっしゃられたようなことが現実でありますので、これも大事にしくちやならない。でも「理想」ということで、教育的な効果というようなことを考えるとすれば、その問題についての捉え方を考えて答申に持っていかざるを得ないという、苦渋の選択をせざるを得ないわけではありますが、そういう点でH委員、いかがですか。

H委員

いくつかの考え方があるなと思いながら聞いていたんですけども、C委員から出た地域というのは、やはりこれは重要な部分で捨てがたいのは確かです。実際に私も川原代小にもいましたからね、地域の区長さんを始め、運動会を例にすれば開会から閉会までずっと励ましてくれるなんて学校は、ほかに無かったですからね。地域の協力という部分では、聞いていて確かにそうだなと思いました。古い歴史のある学校の良さというのは「おらが学校」という意識があるし、そういう意味で捨てがたい部分もある。

また、私の経験から考えたときに、私がいたところは単学級（が多い）ですけどもね、今の駒馬台は2学級で何がプラスかという、まず運動会や持久走がクラス対抗なんですね。運動会ももちろん赤白に分かれる。単学級だとクラスの中で赤白に分かれていたのが、クラスごとに分かれる。別に競争心だけが全てじゃないけれども、そういう部分が高揚する。

学力で考えても確かに、先ほどI委員も話したように、それぞれ先生方も一生懸命子どもたちに指導している中でベテランと若い先生では同じように指導しても差が出ることは、これはやむを得ない部分です。私は前に言ったように3クラスが理想なんです。複数学級の方が子どもたちの学力も上がる。今日実は2年生の子が「掛け算九九を校長室で言う」というので、20人ぐらい並んでるんですね。競争して。そういう学習の刺激からすると、やはり複数の方が子ども同士の刺激があるなと実感したのは確かです。子どもたちをどうするかということから発信した場合に、生活の面それからスポーツの面もろもろの刺激という部分では、複数以上の学級が活力的には良いのかなというのが、前回よりさらに感じてる状況ですね。

H委員

補足すれば、中学校ということが出たんですけれども、取手市の野々井中は県南で最も小さい中学校ですが、やはり中学校なんかはもっと強烈に単学級か複式学級かで学力その他の部分に差が出ますね。そういうことを、野々井中で私のよく知っている教員が校長をやっているんですが、よく語っていることがありますね。龍ヶ崎だって人口が当初からすれば減ってますから、その部分も「他人事じゃないな」と思いながら、行く行くは真剣に考えなくてはと、そんなふうを感じながら聞かしていただきました。

議長

いろいろな意見が出て参りまして、私の感想をここで述べさせていただきますと、要は人間作りの上で大切なのは「集団の力」というようなものがひとつあるのかなと。学力も含めてですね。集団によって人間が形成される。私の持論なんですけど「人間作りの一番大事な部分には揉まれる部分が無いとだめだ」というのが考え方なんです。揉まれるというのは、紙を揉んで硬いものが柔らかくなるように、大勢の中でもって人間が揉まれることによって、強い忍耐力のある我慢強い、それからまた集団の中での己のあり方とかそういうものを、見極めることができる社会人になるのかなと。要は「自立できる人間作り」というのが大事なことでしょうから、そうなりますとそういう問題の視点からすれば、揉まれる場面の集団の力というものがとても大事になってくるような気がいたします。

反面また、思いやりとかそういうことの中では道徳的な考え方からすると、少人数の中でも十分そういうものは醸成できるような気もいたしますので、どちらが良いって言うわけにも行かない。ただ総合的に教育の全体像を見た場合には、少人数よりは多人数の方が総合的な人格形成に役立つだろうというような、皆様のご判断ではあるのかなと思います。もちろん、地域性の問題であるとか単学級の良さもありますけれども、最終的には1学級より2学級の方が当面の、本市の、いわゆる適正規模という点からすれば、2学級あたりの線が2学級以上というかな、そういうところが一応現時点において、なおかつ配置につきましては今度どうなるかは別としまして、そういうような方向の話が出てきたような気がいたします。私の今の発言に誤りがあるかもしれませんので、ご発言をいただければと思いますが、大体そのような話であったかと思えます。「地域」も大事にする、それから「少人数」も大事だ、それから「少人数の良さ」もある。将来を考えたら完全に小人数学級しかないんだというような現実もある。しかし当面10年くらいであれば、人口の動態もありますけれども、これは複数の問題で、やっていける状況にもあるというようなことですが、私がまとめるわけじゃありませんけれども、皆さんの意見がそんな方向でできたのかなということでもあります。

何か次の視点に入りたいと思いますがよろしいでしょうか。C委員、ありますか。

C委員

私朝日新聞を取っているんですが、毎週水曜日に教育委員会の先生方が提唱しているものです。「教育の再建」という記事が毎週水曜日に載る。これにはいろいろな教育委員会の先生が（登場する）。先ほど言ったように「学校再建は住民参加で」というのが12月9日、11月11日にはいま会長さんがおっしゃったように「揉まれながら人間は育っていく」なんていう、朝日新聞でそういうことを提唱していたんです。やはり先生方によっては考え方も違うというようにね……これはご紹介ですが。



議長

ありがとうございます。私は朝日を取っていないもんだから、「揉まれる」というのは今初めて聞いて、「私の考えにも多少間違いが無かったかな」というような自信ができました。

さて、時間は3時半までの予定でございますので、あと30分くらいありますけれども、そういう中で今まで以外に「こういうことはどうなのか」というお気づきの点があるかと思しますので、そういう点についてご発言をいただければありがたいと思います。子どもの視点についてはどうか、もう十分なのか。E委員から「今までは子どもの視点が足りなかったんじゃないか」というご意見が出ましたが。親の意見・親の視点、教師の視点、それからまた一般の社会の風潮ということも考えねばならないことだと思いますので、そういうものを踏まえながらどうでしょうか。A委員どうですか。大宮地区という小さいけれども、小さい学校の良さということを第2回のお話いただいたので、私にはとても印象的だったんですが。

A委員

皆さんのお話を聞いていると、2～3学級の30人規模というのがいいんだろうということだと思います。それを考えると、龍ヶ崎の現状を見ると長戸・大宮・川原代・北文間はそれにはもう値しないという学校になるかと思うんですよ。その中でも長戸小は10人くらいの規模だと思うんです。そのほかの3校はギリギリ、20人～30人で本当にギリギリの線じゃないかなと私は思ってるんですね。

そのギリギリのところの子どもたちを見ていると、子どもたちは多い少ないということあまり考えてはないんでしょうけど、それなりに楽しく6年間過ごして、中学校に上がったと思います。今（自分の）子どもが中1と高1なんですけど、それぞれ10人～30数人のクラスでした。今でも仲良くやってます。それはそれでいいのかなと思いますけど、例えば「学校を大事にする」という気持ちなんですけど、後々大人になって子どものころを思い出して「楽しかったな」とか、そういう気持ちがやはり「その学校を残したい」とか思う気持ちだと思うんです。だから今の子どもを思うと、そういう適正な規模に値するような編成をしたとしても、それはそれで子どもたちは対応するだろうし、友だちが多くなればなるほど逆に良いのかなという気持ちもあります。

本当に何人が最低限度の1学級なんだろうかと先ほども思ったんですけど、20人なのか30人なのか、10人じゃ少なすぎるなと思います。現実に子どもたちを見て10人じゃ少ないなというのが実感ですし、20人～30人で限度だなという思いが、私は今の段階では思っています。

議長

関係して、何かご発言ございますか。はい、C委員。

C委員

今、中学校の選択が自由なんです、龍ヶ崎の場合はね。そうですね、校長先生ね？

議長

学校を選んでもいいのかな？

事務局

学区制を龍ヶ崎は採用しております、基本的にはその学区で決められた学校に就学していただくというのが基本でございます。ただ、例えば自分の家の目の前に学区と違う学校があるとか、大きな道を渡らないとその学校に行けないなどの交通の問題、いろいろな問題が個々にはあります。それから中学校などですと、自分の学区の中学校にはやりたい部活がないとか、いろいろ要件があります。そういったことで、就学校の変更ということで申請を受け付けることはしています。要件があるんですけども、それに合致するものであれば学校の変更を認めています。

そのときに、特に小学校などですと（変更しても）学区図に近いところということでやっておりますので、あまりにも遠いところであれば保護者の方に通学の安全等について責任を持っていただくということをお願いしています。

議長

なるほどね。C委員、今のような説明なんですけど、おっしゃるように通学の選択の自由とまではいかないけど個々に応じて対応するというようなお答えなんですけど。どうぞ。

C委員

結局、中学校の選択は、小学校の延長の形で友だちや部活動をやる場合など子どもさんの視点です。川原代の場合には城西と愛宕ですが12集落のうち2集落だけが愛宕中で、10集落は城西。ですが、中学はわざわざ愛宕の区域だけと城西の方へ行っている人もいます。これは子どもさんの視点ですよ。しかし小学校というのは親の視点で学校を選んでいきますね。私は川原代に住んでいますが、例えばすぐ目の前に川原代の学校があっても、最近できた良い学校の方がいいという考えで、わざわざ県道を越えて違う学校へ行く。新しい学校ができたその地域に近いところの者は、大体8割は「幼稚園の延長だから」「お友だちがいるから」と、どんなに小学校のすぐ近くでも、遠いところの新しい学校へ行く。こういうふうに「これは学校の選択は自由なのかな」と思ってしま

う。

これはこの前、小学校でいろいろな行事を公民館と合同で行ったときの話しなんですけど、そういうことを実施している学校は少ないんですよ。ある保護者の方が「良い行事ですね」と言ってくれましたが、別の方はそうとも思わないらしい。子どものために良い影響もあると思いますけれど、興味も持たない保護者とか、そんな行事もない遠くの学校にわざわざ行かせる保護者がいるのを知ると「もったいない」と思いますね。親も子どもも一緒になって教育というものが成り立つものであって、子どもだけでは教育できるものではありませんし親だけでもいけない、そういうことを考えれば、やはり朝日新聞に出ていたように、学校経営は住民参加であってほしいと思います。

議長

なるほど。今C委員のおっしゃってるようなことをやっているところもありますよね。ですからそういう考え方もあると思いますんで、また現実私どもの町でね、そういう話題が出てきたってということはとてもありがたいことだと思えます。ただ、大きな流れの中ではまだまだ、先ほど課長さんがおっしゃったように、本市の場合には通学の完全なる自由というのはなくて、個人の状況に応じて選択されているということが、特例的な形で認められているというようなお話がありましたので、ご理解をいただきたいと思えます。でも、そういう考え方もあるというのは事実だろうと思えますのでね、ありがとうございました。

B委員、冒頭に「将来の人口を考えた場合にもう2学級は無理だ、1学級じゃないか」という現実に立脚したお話があったんですが、今までの流れの中でそれを踏まえながらもう少しご発言いただけますか。

B委員

いま発言があったんですけど、大都市では学校選択性も始まっているんですよ。と言うのは私一番最初のときにお話しましたように足立区で実際にやりましたから。

何が良いかという、小規模のところをなくそうというのが発想なんです。要するに学校選択性であれば、自分が行きたい学校に行く。その学校の定数も考えて、最初に「うちの学校はこれだけの人数を定数として入れますから、どうぞ来てください」という形でやっているんです。ということは、小規模が...バランス良く行けばいいんですけど、バランス良く行かなければ小規模の学校が増えるという形ですけど、それはもう学校の教職員の力にかかっているんですよ。要するに学校の先生が「自分の学校はこういう学校ですよ」という良いPRをすれば、生徒さんがいっぱい来るという形。これはたぶん大都市だからできるんだと思うんですよ。小学校とか中学校が30とか40ぐらいあればできる形なので、たぶんこの龍ヶ崎はそこまではできないというふうに思うんですけど、先ほどから出ています「その学校のある地域を大切にする」というのは、私もごもっともだと思うんです。と言うのは私も松葉小学校で実は今年の4月からスクールサポーターに入りまして、子どもと一緒に朝・夕方、学校まで行ったりご自宅まで送ったりしているんですけど、やはり学校だけではできないですよ。地域があってその学校が発展するという形なので、地域性も大事にしなければと思うんですよ。

いろいろなことを大事にしなければならぬんですが、先ほどから言っていますようにやはり現実を考えて、答申書を作らないとまずいのかなという気はするんですよ。この資料にもありますとおり、児童から見ればメリットもあるしデメリットもある。教員からすればメリットもあるしデメリットもある。保護者からもあると。メリットもデメリットもいろいろありますので、一概にこれがいいですよという形のものはたぶん出ないというふうに思うんですよ。だからそれを考えると、一番最初に人口動態とかそういうのも話がありましたとおり、それに沿って龍ヶ崎では5年後10年後こういう形が望ましいですよという方向性を出した方が、私はいいのかなというような気はするんですよ。

議長

ありがとうございました。D委員、いかがですか。

D 委員	<p>現実に子どもが減っていくという統計も出ています。子どもを増やしてという話もできないわけですし、ましてや生まれてこれから小学校に上がろうかという子どもたちを増やすなんてことは難しいでしょうから、それからすれば現実的なところに落ち着けていくようにしかないのかなと思いますね。</p>
議長	<p>F 委員，教育の効果と言うか，教育の問題の原点に立ち返った場合に，小規模工・大規模校，人間作りに変わりはないと思いますが，より一層の効率の良い教育活動をするような場合の視点から，どういうふうにお考えになられますか。</p>
F 委員	<p>先ほど会長さんから「揉まれる」というお話があったんですが，また，I 委員からも「学びあい」という，子どもたちに教師だけが教えるというのではなくて子どもが相互にお互いの良さを広めあったりとか，足りない部分を教えてもらってその人の良いところを認めて，そういう人間関係も視野に入れていくと，やはりある程度の規模があったほうが良いと思います。ましてやG 委員からも，学校ではいじめとかトラブルもありますので，どうしても成長段階のときの問題としてどこの学校でも抱えている問題ではありますので，そういうことを回避するためにも複数あった方が，子どもの成長時にとってはやりやすいのかなと思っております。</p> <p>ちょっと今違う件で考えたもので，よろしいでしょうか。先ほどの理想論と現実論というお話で。0歳児とか2歳児を見ていただいて，600人とすると1学級30人規模だとすると20クラスしかできないわけですよ。それを（1校で）3クラスとすると，必要となる学校の数は7学校になってしまう。それでは極端すぎて，やはり現実も踏まえながらある程度時間をかけて移行していかなければ，世の中って一気に変えるのも大事なんだけど，徐々に変えていくことも重要なのかなと，思いました。</p>
議長	<p>ありがとうございました。時間も迫ってまいりましたので，G 委員、どうぞ。残りの意見を出してください。</p>
G 委員	<p>私がいたとき，松葉小学校が子どもがどんどん増えていく時代で4クラスぐらいあった時代なんですけど，20年前ですね，これから先を考えると松葉小だって，今長戸とか川原代とか北文間ばかり話題にしていますが，ニュータウンの抱える問題っていうのはそうなんですよね。一度に増えますけれども，その後はニュータウンじゃなくてオールドタウンになってきちゃうんです。年配者ばかりになっていって子どもが戻って来なくなるので，これから先20年経ったらば今のニュータウン，長山小も松葉小もひょっとしたら八原も，今の長戸・大宮・川原代・北文間が抱えているような状態になると思うんですよ。そう言ったときに，今の学校数を維持していくことが果たして可能なのかなということを見ると，ちょっとまとまらないんですが，可能なのかなどうなのかな，財政面とか考えるとどうなのかなというふうに，いろいろなことを考えてこれから判断していかなければならないとすると，ある程度厳しい判断も必要なのかなというような感じはしました。</p> <p>私があくまでも理想として適正規模を考えたら，1クラス30人くらいで3クラスくらいあると，子どもたちにとっても教員にとってもお互いに学び合いができる規模かなというふうな私の考えは，変わりません。</p>

議長	<p>ありがとうございました。答申に向けての話し合いは、完璧な答申を出すのではなくて、一つの現実を踏まえた形で、当面出される答申ということになるんだらうと思います。50年先60年先を考えるとというわけにはいきませんので、5年10年ぐらいをスパンにした答申というかたちで、今回は出させていかざるを得ないだらうと思います。それを踏まえながら、考えていただければと思うわけです。それから現実と理想ということの狭間の中で、それぞれの委員の方の思いというのは深いだらうと思いますし、これでいいという完璧なものは私も出すわけにはいきませんので、どこかで一つの方向だけは見出しながら進めていくことの必要を今感じながら、司会を進めております。</p> <p>時間も迫りましたので、何か最終的にご発言ございませんか。</p>
B 委員	<p>この適正規模適正配置というのは、たぶん教育委員会だけではできないと思います。龍ヶ崎の全体を考えるとという意味でも、ほかの部署との連携も必要ではないかというふうに思います。</p>
議長	<p>調整が必要ですね、行政はね。</p>
B 委員	<p>今でも計画では人口10万人を目指すと言ってますけども、一向に増えないですよ。一向に増えないからその増える方法を教育委員会じゃなくてほかの部署で考えていただくと、すごくスムーズに行くんじゃないかと思えますけどね。</p>
議長	<p>I 委員、何か発言を。</p>
I 委員	<p>じゃまず中学校について。今3学級で特に城南・愛宕・長山中は同じくらいの規模なんですね。でも3学級あれば十分、いろいろな活動ができます。部活動なんかを見れば3学級では足りないんですが、でも3学級あれば十分、2クラスになっても1クラスの人数が多い2クラスならば、3学級に近い人数ならば中学校では何とかあります。そう考えると3～4年はこのままで大丈夫なのかなって感じはします。</p> <p>小学校に関しても、1クラスでも人数が多ければ、理想は3クラスぐらいたと私は思うんですけども、当面は...というのは、複式学級になっちゃうようなものではなく単学級でもある程度人数が確保できて30人近く...20人ぐらいてもね、いろいろな活動できると思いますけれど、10人ぐらになっちゃうと複式学級、要するに1・2年で1学級、3・4年で1学級とか、一つの小学校が3クラスしかないとか、そういうことではなくて6学級あれば、当面は何とか活動できるのかなと思います。でも理想はやはり3学級です。地域性もありますので、特にイメージする学校はみんな離れてますからね、どこかにまとめるにしても結構遠いというか、通学距離ってものはあると思います。</p> <p>そういうのもあまり話題には出ませんでしたけど、自転車通学で交通事故で亡くなったなんて話もありますけれど、中学校の自転車通学を見直そうみたいな話もありますけど、一番近いのが一番良いというので地域の学校というのも大事だし、まとまらなくなっちゃいますけど、そういうのを考慮しながら学校をうまく、当面の話でできないかというのは考えますね。全部を3クラスにするとか学校を分断するとかというのではなくて、通学距離というのも考えて子どもたちのことを考えれば、どうするのが一番良いのか。難しいですけども。</p>

議長

それでは時間も経過してまいりましたので、一つの方向というかたちで申し上げたいと思いますが、地域を大事にする、それから子どもの人格形成にも十分役立つように、それから教育的な効果であるとか教育のメリットも十分考えたりして、最終的には立派な人材を作り上げていく教育の原点に立っているとすれば、いろいろなご意見がありますけれども当面、理想とする学級に関しましては現場の先生方から「少なくとも複数学級」それから「数字の上では単学級でも十分可能」と。そういう将来を見越しながら当面、この答申の基本的なあり方としては、小学校の複数学級、2学級ということになりましょうか、6年だから1校12学級ぐらいの規模。

中学校に関しましては具体的な細かい話は出てまいりませんでしたけれども、今のような基準からすると、1学年3学級で9学級の状況ということになるでしょうか。これくらいが一つの理想として考えられる。しかし、将来を考えた場合には人口減がはっきりしておりますから、それはそれなりにその時点で対応を考えながら、適正規模配置の問題を出していただかないだろうと。

この委員の構成の中では現実としては今のところそういうような取りまとめになるのかなという程度なんですけど、そんなことでよろしいでしょうか。いろいろな意見があって十分なまとめにはなりませんが、このあとの適正配置という段階に入りまして現実を見ながら、事務局と調整させていただいて、答申案の基本的なことをまとめていきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは細かいところはまた後ほどということになりますが、原則的には1学年2学級そして12学級の小学校、そして3学級が中学校というような方向で、でも現実には1学年1学級でも十分対応できるような現実ができてくるだろうと思いますので、それは地域性であるとかいろいろなPTA活動の中でのことも見据えてとか、そういうこと考えれば出てくるわけありますので、そういうことを整理させていただいて今日の会議は終わりたいと思います。

これは一概に言い切れないから、答申も「こうだ」ということは出てこないんじゃないかなというように気もしてその点心配はしているんですが、今龍ヶ崎市平成21年度22年度の現段階ではこんなことだよと、というようなことのまとめになればありがたいなと思っておりますので。

B委員

今後のスケジュールを教えてください。どういうふうな流れでスケジュールを立ててるのか。

事務局

今年度につきましてはもう1回、2月か3月ごろにお願いできればなと思います。

今回は適正配置について、先ほど学区のお話もしましたけれども、学区にとらわれずに龍ヶ崎にどのぐらいの学校が必要なのか。

考え方として、適正規模が大体何クラスぐらいというのを今出していただきましたけれども、それを前提にした場合学校はどんな配置になるのか、あるいは地域の問題もありますので、その辺の「地域として残す」とか「残さない」とか、合併するにしても離れてはなかなか難しいとか、その辺も含めまして適正配置についての審議を次回からはお願いいたします。最終的に、規模につきましても配置と合わせまして答申書の方には一緒に出していただきたいと思っております。来年も4回ぐらいで予定しています。

B委員  
事務局

パブリックコメントはいつごろに出します？

会議の進み方によってご意見をいただきながら、「地元の声を聞いてみよう」とかそういうのがあれば、審議会の間に入れながらやっていきたいなと思います。パブリックコメントについては通常、審議会が終わってある程度集約された意見に対してコメントをいただくという形になると思いますが、今回については、一度パブリックコメントを取って、審議会でパブリックコメントを加味しながら答申いただくのがいいのではないかとというふうに考えております。

3回終了してある程度まとめれば、そこでパブリックコメントを、それで4回目にパブリックコメントの意見を取り入れて最終答申ということで、来年度お願いできればと思います。

議長

いずれにしてもパブリックコメントまたは、地域の方々の意見というか、あるいは地区の代表の方々にお集まりいただいてお話を聞くとか、そういうことも必要になってくるんだろうと思いますので、それを踏まえながら現実的な対応を考えて、なおかつ将来像を見据えながら、将来は必ずこうなってしまうよというような見通しも出さなくてはならないでしょうから、いろいろな角度から皆さんのご意見を集約して、最終的な答申を出していきたいと考えております。一方的にこうだあだではなくて、いろいろな気持ちがたくさんあるわけですから、それを一つ一つ解決できないままに答申を出していくというようなことになってしまうかもしれませんが、ご了承いただければと思っております。

寒い中お忙しい中、年末の忙しい中ではありましたが、ご参集いただきましてありがとうございました。来年は2月、3月にあるようだとということでございますので、どうぞ良いお年をお迎えください。ありがとうございました。

平成 年 月 日

署名 \_\_\_\_\_

署名 \_\_\_\_\_